

タイトル:

私の知っている 日本

氏名:

バトバヤル ヴァルモン

BT

「日本の技術は世界一」と、誰もが考えていると思います。この国を選んだ私が三年間の実習中に気づいたのは「日本で最も重要なものは、国民だ。」ということでした。日本人が誇りとしているのは情熱、努力、礼儀作法、文化です。また、他国との関係を包括的に理解しているところです。そう思うようになった理由はたくさんあります。私が初めて来日した時のことです。誰も気にとめないようなマソホールカバーに、絵画が刻んであるのが見えました。その技術は本当に素晴らしいのです。また建築関係の人たちは、周りの車などにはこりがかぶらないよう、ビニールでおおっていました。エコノミストイソテリジエンスというデータを見ても日本は、国民の安全、健康、イソフラボンで世界でトップレベルだそう、なるほどと頷きました。そういつたことから、日本の全てを学んで、帰国してから母国に貢献するという気持ちで働くことが、私の目標になりました。家族に会い

、休みたいという気持ちや色々な障害があっても、目標を達成するという強い気持ちで精力的に働いています。いいことだけでなく、苦しいこともあります。実習生たちは互いに尊重し、協力し、仕事の能率を上げていきます。間違いをさけるために注意しあったりしますが、そういった実習生たちは少数だと思われていることが残念です。「実習が終わったら帰国するんだから、そんなに努力しなくていい」という人もいました。人によって受けた教育も考え方も違うので仕方ありません。実習では、母国では経験したことのない良いことや学ぶことがたくさんあります。例えば私たちは文化の違う国から来たけれど仕事をしに来たんだ」ということをしっかりと理解しているので、会社のルールはきちんと守ります。モンゴルの有名な作家が書いた「見ることの境」という散文があります。「死ぬことは見ることの境。境とは終わりのこと」と私は受け取りました。私たちは数年後に進

む道が分かれとも、みんなと一緒に作ったものは私たちの子どもたちや使う人たちに回想されていきます。私たちは死んでも終わりでなく、残した技術は生き続けるんだと思うようになりました。ある時、私は鏡の前に座つて「自分は今どこにいたんだろう？」と自分に問いかけました。その答えは、「世界を知るため。人の役に立てるように学び、全ての人々と自分自身に幸せを与えるため。愛する娘の、良い将来のため」という答えが生まれました。日本人たちから日本のことをしっかりと教えてもらって帰国したいです。ひとつ、大切なことが言いたいです。技能実習生のビザの決まりがとても厳しいので、もし三年の実習が終わって延長することになったらその時は家族を呼ぶことができるようにしてほしいです。家族を呼んで一緒に暮らすことができれば、もっと頑張って仕事の能率も上げるし、生活も幸せになると思います。そして帰国したら、日本から学んだことを生かす

た会社を作り、社員や、未来の人たちを育て
ていきます。それが国の発展の要となること
を、今私は目指しているのです。